

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜聾学校

学校番号	102
------	-----

自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚に障がいのある幼児児童生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし、自立と社会参加ができるよう、「生きる力」を育む。 ・コミュニケーション能力を身に付け、主体的に学び、判断・行動し、問題を解決できる力を育成する。 ・健やかな体と自他を尊重する豊かな心を育成する。
--------	--

評価する領域・分野	学校経営方針、各部の教育活動・学習指導
現状及びアンケートの結果分析等	<p>・学校の教育活動に関するアンケート結果より、保護者にも理解と協力を得て教育実践が行われていると評価されている。中でも新型コロナウイルス感染症対策をしながら、教育活動を積極的に公開する機会を増やして実施してきたことや、教育活動に体験的な活動を多く取り入れられるようになり、幼児児童生徒たちの意欲的に取り組む姿がみられるようになってきた点が高評価につながっていると思われる。また、今年度に入りホームページで日常の様子を積極的に伝えており、学校教育活動の理解につながっている。</p> <p><課題について></p> <p>保護者へのアンケートで、作品展への出展や将来の進路に関わる資格や検定などへの取組について、「わからない」という回答が20%を超えている点を課題とし、後期には以下のような取組を実施した。</p> <p>各種大会・作品展・資格試験や検定の実施について、幼児児童生徒が意欲的に参加できるような積極的な情報発信や目標設定などを行った。また、それらの取組の様子や実績などもホームページに掲載し、理解につながるよう取り組んだ。特に、進路についての情報提供は掲示場所や掲示方法を考え、関心をもてるように工夫した。今後も、幼小中高の段階に応じたキャリア教育の充実と情報発信に取り組んでいく。</p>
今年度の具体的かつ明確な重点目標 (学校として取り組む課題)	<ol style="list-style-type: none"> ① 個に応じた教育の推進 (今だけではなく、卒業後も視野に入れた指導・支援) ② ICT機器を活用した教育活動の工夫 ③ 開かれた学校づくりを目指し、教育活動がわかる情報発信と活動を応援したいと思われる取組の実施
重点目標を達成するための校内組織体制	<ol style="list-style-type: none"> ① 各部ごとに課題を明確にし、具体的な取組を挙げて幼児児童生徒支援の推進にあたる。 ② ICT機器を活用利用した授業実践や、指導力向上に関わる研修や、聴覚障がい教育の充実を目指すための教育環境の整備 ③ 各部単位でもホームページを利用した活動状況の発信、保護者懇談、部懇談の実施、手話講座等の地域への啓発活動
目標の達成に必要な具体的取組	<ol style="list-style-type: none"> ① キャリア教育の視点を踏まえた、個別の教育支援 <ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門性向上 (校内研修・自主研修の充実) ② 「わかった」「できた」と感じる指導・支援 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書、授業支援ソフト、タブレット等の効果的な活用 ③ 教育活動がわかるようタイムリーな情報発信 (ホームページ・通信の活用) <ul style="list-style-type: none"> ・学校間交流 (小・中・高) や地域交流 (学校行事への案内) の実施

達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた教育を推進することで、幼児児童生徒が他者と積極的に関わり、自分なりの表現で思いを伝えたり他者の話を聞いたりすることができるなど、豊かな言語力を育む指導・支援が行われているか。 ・積極的な情報発信に努め、外部評価や自己評価を学校経営の改善に生かすなど、開かれた学校づくりを推進できているか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ① キャリア教育として、企業ガイダンスの実施やPTAの企業等見学の実施を行った。また、職員研修（8月3回・10月1回）、手話研修会、各部で授業研究を行い、幼児児童生徒の個に応じた教育の推進につなげた。 ② タブレットを用いた家庭学習を積極的に取り入れ、デジタル教科書を活用した授業実践や使用教材（プリントや資料等）の活用・保管と共有により、教育活動の充実を図ることができた。 ③ ホームページを活用した情報発信として、日々の学校の様子や各部の取り組みの状況を積極的に発信することができた。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校間交流（加納幼稚園・加納小学校・岐阜大学教育学部附属小中学校・加納中学校・岐阜聖徳学園高校・東海地区聾学校）を積極的に実施 ・作品展への出品、手話スピーチコンテストへの出場、24時間TVへの参加
評価の視点（A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：やや不十分 D：不十分）	評価
① 学校教育目標に基づいた教育活動を計画・実施できたか。	A (B) C D
② 各部ごとに特色ある教育活動を展開できたか。	(A) B C D
③ 積極的な情報発信により、開かれた学校づくりが推進できたか。	(A) B C D
成果・課題	総合評価
<p>○各部ごとに、幼児児童生徒の発達段階や個々の実態に応じた教育活動を実施し、指導・支援について保護者の協力と理解を得ることができた。</p> <p>○学校生活におけるコロナ感染症防止についての協力を得て、行事や授業参観、保護者懇談、地域への啓発活動の内容を工夫し、実施することができた。</p> <p>○いじめや体罰を許さない学校の方針を、生徒が感じ取ることができている。</p> <p>▲保護者とのより密な連携、情報提供、質の高い教育活動、専門性を備えた教職員へのニーズが高いことがうかがえることから、学校の様子がよく伝わる教育活動の発信を今後も考えていくとともに、聴覚障がい教育の専門性について、各部の状況に応じ改善に向けた取組を考えていきたい。</p> <p>▲特色ある学校づくりについて、保護者、関係者、地域の方の意見を広く取り入れる機会を工夫し、推進していく必要がある。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	聾学校教師として、コミュニケーション力、言語力向上のための指導力等の専門的な知識や技術の向上のため研修の推進を図る。

学校関係者評価（令和6年1月25日実施）

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・来年度に向けての改善方策を具体的に示すと、目的が明確になり取組につながる。 ・聴覚障がい教育の専門性とはどのようなものか、具体的にその向上に取り組む。 ・地域に根付いた開かれた学校づくりのための情報発信は、受け手側があることなので、大変難しいが継続が必要である。 ・生徒会の活動だけでなく、幼小中高が一つになった学校の特性を生かし、他の部との交流をより推進していけるとよい。 ・聾学校の歴史もこの学校ならではの特徴の一つであり、教師や児童生徒も学べる場があるとよい。